

09

**言語交流研究所
2009年度
年次活動報告書**

2008年10月～2009年9月



- Spanish* ¡Hola!
- Korean* 안녕하세요!
- English* Hello!
- Japanese* こんにちは!
- German* Guten Tag!
- Chinese* 你好!
- French* Bonjour!
- Italian* Ciao!
- Russian* Здравствуйте!
- Thai* สวัสดี
- Malay* Selamat tengahari!
- Portuguese* Boa tarde!
- Indonesian* Selamat siang!
- Cantonese* 你好!
- Arabic* السلام عليكم
- Hindi* नमस्ते
- Taiwanese* 汝好!
- Turkish* Merhaba!
- Swedish* Hej!
- Swahili* Jumbo!
- Vietnamese* Xin Chào!

08

ことばと人間の探求

言語交流研究所 代表理事
榎原 陽



Multilingual Life 2008-2009

Hosting / Daily Activities / Family Exchange / Youth Exchange

ヒッポでやっているのは「外国語」ではない。同じ人間のことばの活動である。

この仕事を始めて以来、私がやってきたことはただひとつ「人間とは何か」ということを探求し続けることだった。ヒッポでは活動をしている様々な人たちがいろいろな話をしてくれる。自分ひとりでは見つけられないことも、人間にはことばがあるから人の体験を通して、ことばを話す人間とは何か、ということをも見つけることができるのである。言い換えれば、人間に一度生まれたなら、人間に生まれて良かったな、人間ってすごいな、と実感する話に耳を傾けながら、私はこの活動を続けてきただけだ。

人間は音声を文字に置き換えた瞬間から、ことばを〇〇語、××語というふうに見るようになり、その違いばかりに注目するようになってしまった。これが「外国語」という思想の誕生ではなかったか。ことばは全て、同じ人間のことばである。ヒッポには「外国語」というものは存在しない。

自分のこどもが生まれた時「この子が大きくなった時、世界はどんどん狭くなっていくだろう。そんな世界を伸び伸び生きていってほしい。それには日本語以外のことばも出来たらいいじゃないか」。そう思ってこの仕事を始めたのは40年程前のことだ。当時英語で始めたこの活動も、今では21のことばの世界に広がった。ことばの数が問題なわけではない。同じ人間が見つかることばの自然な道筋が、多言語を通してくっきりと見えてくるのである。あらゆる言語はその構成音群が見事に共鳴し、簡明な秩序でそれぞれの交響曲を奏でている。自然がどう振舞っているのか、人間のことばとは何か。皆とともに探求していく場がヒッポである。



2008

- Oct.** 研究協力者の南部陽一郎氏ノーベル賞受賞記念講義「素粒子物理の最前線」開催 (講師：小寺克茂氏) 10/30
韓国合宿&1泊ホームステイ交流 10/31 ~ 11/3
- Nov.** メキシコにて『Aventuras con FOURIER』発刊「フォーリエの冒険」スペイン語版
- Dec.** 冬の家族交流 12/21 ~ 1/4 (メキシコ・コスタリカ・台湾・ロシア・マレーシア)

2009

- Mar.** オープンラカレクラブ講座開催 3/22 ~ 4/2
春の青少年交流 3/26 ~ 4/5 (タイ・フランス・マレーシア・オーストラリア)
春の家族交流 3/26 ~ 3/31 (韓国)
- Apr.** ゴールデンウィークの家族交流 4/26 ~ 5/10 (フランス・マレーシア・イタリア・スペイン)
- May.** 特別講演「多言語について」開催 (講師：スザンヌ・フリン氏/MIT言語学教授) 5/31

- Jul.** 夏の青少年交流 7/21 ~ 8/24 (アメリカ・ロシア・メキシコ・韓国・台湾・イタリア)
- Aug.** 夏の家族交流 8/1 ~ 8/25 (メキシコ・ロシア・韓国)
第2回アジア青年多言語合宿交流 8/25 ~ 8/31 (上海)
“世界に広がる、多言語仲間!”スワヒリ語版CD発刊
- Sep.** 秋の家族交流 9/19 ~ 9/23 (上海)

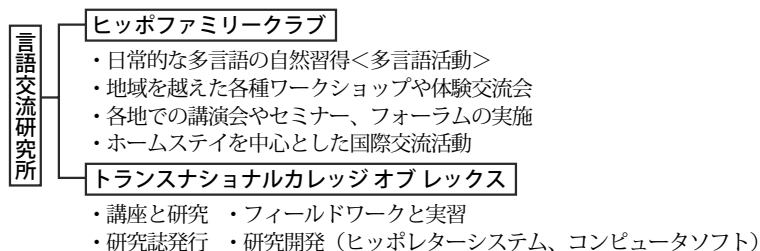
2009 Calendar

言語交流研究所 事業体と事業内容

事業目的

「ことばと人間」を研究テーマに、多言語の自然習得及び多国間交流の実践を通して、言語と人間の科学的探究を進め、国際間の理解と人類の共生に寄与することを目的とする。

組織と活動の概要



事業内容

1. 複数のことばを同時に自然習得する多言語活動の実践部門「ヒッポファミリークラブ」(会員制)の運営
2. ヒッポファミリークラブの多言語・自然習得活動の体験を基盤に「ことばと人間」を自然科学的に探求する「トランスナショナルカレッジオブレックス」の運営
3. 日本に滞在している研修生や留学生を会員家庭に迎え入れるプログラム「トランスナショナルホームステイ受け入れ活動」の実施
4. 海外の諸機関諸団体と協力して各国にホストファミリーを開拓し、あらゆる年代の人々がホームステイに出かける「トランスナショナルホームステイプログラム」の実施
5. 高等学校交換留学制度「イヤーロングプログラム」による、留学生派遣と受け入れ、及びそれに伴う協力機関の開拓
6. 実践と研究に基づく、言語に関する講演会、セミナー、フォーラム等の企画と実施
7. 多言語活動に関する各種マテリアル、ソフトウェアの開発、制作 (CD、CD-ROM、DVD、ビデオテープ、ホームページなど)
8. 文字を人間の自然な認識という面から科学的・多言語的に捉え、世界中で共有できる文字システム「ヒッポレターシステム」の開発
9. 言語研究活動に関する出版
10. 広報、機関紙、研究誌の発行ほか

組織概要

名称：言語交流研究所
LEX: Institute for Language Experience, Experiment & Exchange
本部所在地：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-2-10 青山 H&A ビル 3 階
代表理事：榊原陽
設立：1981年10月1日
性格：理事会を決議機関とする任意団体
運営：自己資金100%

主な活動内容

実践部門 ヒッポファミリークラブ

7カ国語 (スペイン語、韓国語、英語、日本語、ドイツ語、中国語、フランス語)* をベースに、複数の言語を同時に、自然の道筋で習得していく活動を実践しています。

*現在は21のことば：7カ国語に加えて、イタリア語、ロシア語、タイ語、マレーシア語、ポルトガル語、インドネシア語、広東語、アラビア語、ヒンディー語、台湾語、トルコ語、スウェーデン語、スワヒリ語、ベトナム語

日常の多言語活動 (ファミリー活動)

言語交流研究所の研究員 (フェロウ) によって運営されている活動場所 (ファミリー) は全国に700カ所以上。こどもを連れた家族を中心に、幅広い年代のメンバーが集います。メンバーは、世界の歌やオリジナルのストーリーが収録されている多言語マテリアル CD を日常的に楽しみながら、地域の活動場所に参加します。

アメリカ、メキシコ、韓国、台湾にも支部があり、同じ活動を楽しむ仲間が世界にも広がっています。

国際交流活動 (ヒッポ トランスナショナルホームステイ)

国や文化、ことば、習慣、人種の違いを超えて、どんな人にも同じ人間として心を開き、仲良くなることを目的としたホームステイ交流を年間を通じて実践しています。

現在約30の国や地域**に協力団体があり、青少年交流 (10日間～1ヵ月間)、高校留学プログラム (約1年間)、家族交流 (4日間～2週間) などのプログラムを通じ、年間約1,500名のメンバーが海外で相互交流を楽しんでいます。

また、協力団体や外務省、(独) 国際協力機構 (JICA)、(財) 海外技術者研修協会 (AOTS) などの機関を通じて来日する世界の人たちと交流する「受け入れホームステイプログラム」も盛んです。例年120カ国以上、約5,000名の方々がメンバーの家庭で受け入れしています。

** 交流している国や地域は、アメリカ、カナダ、コスタリカ、メキシコ、ブラジル、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、韓国、中国、ブルネイ、マレーシア、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、ミクロネシア、イタリア、イギリス、オーストラリア、オランダ、スウェーデン、スペイン、ドイツ、フィンランド、フランス、ルクセンブルク、ロシア、トルコ、チェルノブイリ、南アフリカの31の国や地域。

研究部門 トランスナショナルカレッジオブレックス (通称：トラカレ)

「ことばと人間」をテーマに、学問の分野を超えた研究に取り組んでいます。ことばを自然科学的な視点から捉えなおし、言語音声の解析や、記紀万葉などの書物を通して、ことばの成立について研究しています。研究活動から生まれた『フーリエの冒険』、『人麻呂の暗号』などの書籍も国内外で大きな反響を呼び、ともにベストセラーになっています。

構成

言語交流研究所は、理事会・研究員（フェロウ）と事務局で構成されます。

■代表理事：榊原 陽（Transnational College of LEX 学長）

■理事：

赤瀬川 原平（作家・画家）	丸山 瑛一（独立行政法人 理化学研究所 イノベーション推進センター特別顧問）
内田 幹和（元株日立情報システムズ専務取締役）	三井田 純一（元原子力研究所東海研究所副所長）
大和田 康之（在米国際基督教大学財団理事 / LEX America 理事）	南 繁行（大阪市立大学大学院教授）
尾関 雅則（元鉄道総合技術研究所理事長）	鈴木 堅史（言語交流研究所 / LEX America 理事）
長谷川 龍生（詩人）	平岡 一武（言語交流研究所）

■ Transnational College of LEX 学長：榊原 陽（言語交流研究所 代表理事）

■ Transnational College of LEX シニアフェロウ

赤瀬川 原平（作家・画家）	長谷川 龍生（詩人）
太田 次郎（お茶の水女子大学名誉教授 / 分子生物学）	林 輝（東京工業大学名誉教授 / 精密機械工学）
斎藤 尚生（東北大学名誉教授 / 地球物理学）	坂東 昌子（愛知大学名誉教授 / 素粒子物理学）
酒井 邦嘉（東京大学准教授 / 言語脳科学）	丸山 瑛一（独立行政法人 理化学研究所 イノベーション推進センター特別顧問）
坂田 明（ミュージシャン）	三井田 純一（元原子力研究所 東海研究所副所長 / 熱・統計力学）
塚原 祐輔（(株) 理研ジュネシス 代表取締役社長）	南 繁行（大阪市立大学大学院教授 / 電磁気学）
永井 清陽（ジャーナリスト / 常磐大学）	山崎 和夫（京都大学名誉教授 / 理論物理学）
中村 桂子（JT生命誌研究館館長 / 生命科学）	Lee Jacknow（元ニューヨーク州立大学 / 電気工学）
南部 陽一郎（シカゴ大学名誉教授 / 理論物理学）	Suzanne Flynn（マサチューセッツ工科大学教授 / 言語学）

主な出版物

『ことばを歌え！こどもたち』（榊原 陽 著 / 筑摩書房 刊）

■ 暗号シリーズ（藤村由加 著 / 新潮社 刊）

『人麻呂の暗号』『額田王の暗号』
『古事記の暗号』『枕詞の暗号（「枕詞千年の謎」改題）』

■ 冒険シリーズ（ヒッポファミリークラブ 刊）

『フーリエの冒険』『量子力学の冒険』『DNAの冒険』

■ 冒険 CD ブックシリーズ（ヒッポファミリークラブ 刊）

『フーリエの冒険～第5章～微分＜英語版＞』
『量子力学の冒険～第5話～E.シュレディンガー
さば、マトリックス＜英語版＞』

『ヒッポレターシステム インターネット時代の文字表記法』（ヒッポファミリークラブ 刊）

『オドロ木モモノ木ヒッポノ記』（ヒッポファミリークラブ 刊）

☆冒険シリーズは英語版（Language Research Foundation）、韓国語版（Science Culture）、中国語版（繁体字版）（天下文化書房/台湾）、スペイン語版（UNAM/メキシコ）が現地でも出版されています。日本語版は各大学や高専で、英語版はアメリカのコネル大学など、各地の大学の教科書や参考書として採用されています。



2009 年度の話から

新しく就任した研究協力者を迎えての講演会の実施



Dr. Suzanne Flynn

アメリカ、マサチューセッツ工科大学のスザンヌ・フリン教授（言語学）が、正式に言語交流研究所の研究部門の研究協力者に就任し、2009年5月、特別講演会のために再来日しました。講演会は、大阪（梅田・阪急ターミナルビル）、名古屋（国際センタービル）、

東京（目白・学習院大学 創立百周年記念会館正堂）にて実施。メンバーや一般の方を合わせ、全国で2,000名以上の方が参加されました。

教授は、いかに多言語が人間にとって自然であるかを、8つの基本的な項目にまとめ、詳しく語られました。

東京では、フリン教授を迎えてのワークショップを開催（目黒・こまばエミナーズ）。実際の多言語活動の様子やこの環境で育ってきた青少年の体験などを紹介しました。

スザンヌ・フリン教授の講演要項ー【ことばについて8つの基本的なこと】

1. ことばを話すことは、人間特有の能力です。
2. 基本的には、人間のことばは一つしかありません。
3. こどもはことばを「教わるものではありません」。
4. 多言語は人間の知能（知性）の自然な状態です。
5. 一人が習得できることばの数に限りはありません。
6. 誰でも生涯を通じて新しいことばを学ぶことができます。それぞれが、それによって心を若く保つことができます。
7. 多くのことばを知れば知るほど、習得するのが簡単になります。
8. 複数のことばができる事は、さまざまなレベルにおいて、重要でポジティブな結果をもたらす、それは生涯にわたって続きます。



約1時間にわたり、ことばについて講演していただきました

『量子力学の冒険』英語版に南部陽一郎氏が序文を寄稿



南部陽一郎氏

英語版『量子力学の冒険』の監修をされた、ヒッポの研究部門の協力者、南部陽一郎氏が「素粒子物理学における自発的対称性の破れの発見」で、2008年度ノーベル物理学賞を受賞されたことを受け、LEX America では、『量子力学の冒険』英語版に、南部氏の序文を掲載、2nd Edition として発刊しました。同本は、National Science Teachers Association(NSTA)のブックレビューでも高い評価をいただいています。



『量子力学の冒険』英語版

日常の多言語活動

ヒッポの多言語活動は、ことばを外国語として勉強するのではなく、どのことばも「同じ人間のことば」として捉え、習得していきます。

日常の活動には家族や様々な世代のメンバーが集い、多言語の自然習得体験やホームステイ交流での体験を共有しています。活動を通し、自然にどんなことばにも心を開き、同じ人間として向き合い、コミュニケーションできる人材が育ってきています。今期は、全国で約40名の研究員（フェロウ）が誕生、約50カ所で新しい活動場所（ファミリー）がスタートしています。新しいファミリーが誕生することで、メンバーが参加できる場が広がり、地域全体がことばの育つ豊かな“言語場”になってきています。

地域社会の国際化への貢献として

全国各地にて講演会を開催

地域の国際化への一助として、また多言語活動について広く知っていただく機会として「7カ国語で話そう」をテーマに、全国各地で教育講演会・セミナーなどを企画、開催しました。

今年度は、JR北海道の後援を受けたJRタワーホテル（札幌）での講演会をはじめ、全国約300カ所にて開催。参加者総数は21,000名余ののほりました。各講演会の実施にあたっては、文部科学省をはじめ、各地域の教育委員会や都道府県、市区町村、新聞社など、各方面から500近い後援、協賛をいただきました。



地域での講演会の様子

公立学校での授業協力や地域児童館などでの取り組み

地域の公立小中学校からは「総合的な学習の時間」の中で国際理解をテーマにした授業への協力として、約90校から依頼をいただきました。英語教育を導入している小学校からの依頼もあり、留学生・研修生メンバーとともに楽しむ各国のことばや文化は、児童、生徒にとって身近に感じられると好評です。



小学校での国際理解授業

また、地域の児童館などでは、親子で「多言語と子育てを楽しむ会」を各地で主催したり、地域の子育てイベントにブースやステージ参加などもしています。参加した方からは「親子で参加でき、世界のことばに気軽にふれることができるのがとても嬉しい」などの感想も多数寄せられました。

多言語の環境の充実に向けて

ファミリー活動の動向

今年度は、20番目のことばとしてアフリカの言語、スワヒリ語が加わり、日常活動の中で楽しむことばの幅がより広がりました。

今期で2回目のアジア青年多言語合宿交流(上海)には、大学生年代を中心に約100名が参加。中国、韓国、マレーシアなど、同世代の交流を深めました。

また、東京では2009年4月から高大生世代の集うワークショップも始まり、約10カ国からの留学生が集い、高校生たちが英語を中心に多言語を交えながら会を進行するなど、青少年年代の活躍が目立った一年でした。

また、子育て中のお母さん世代を中心に、各地域で「赤ちゃんのことばの発達の不思議」をテーマにした会も多数開催。2009年5月には東京都の後援を受け、東京都児童会館で子育て講座を開催し、100名の方に参加いただきました。

50代以上のメンバーが集うシニア世代の活動も活発で、2009年2月には第3回となるシニアフェスタを開催、体験交流を深めました。



お母さんたちを中心に、子育て講座を開催

ワークショップ等の開催

多言語の環境である活動の場（ファミリー）の充実や、メンバーの活動の楽しさを広げる場として、ワークショップを開催。毎回、国際交流や研究活動などの様々なテーマを切り口に、メンバーが会の作り手となり、地域を越えて交流する場となっています。今期は各本部所在地のほか、横浜、青森、新潟、福島など、各地でも開催されました。



東京のワークショップでの物理の話に興味津々の子どもたち

理事懇談会の実施

多言語活動の提唱者、榊原陽代表理事をはじめとする、理事を囲んでの懇談会は、年間を通して、本部（東京・渋谷）で実施されています。多言語活動のベースに流れる「ことばと人間」についての話題など、毎日が地域を越えた研究員（フェロウ）、メンバーの楽しい体験交流の場として好評です。今年度は各地域でも懇談会が多数開催され、ヒッポの理念や活動について身近に聞ける機会も増えました。

全国各地で、メンバーが活躍しています

各地で通訳ボランティアやイベントスタッフとして活躍

仙台では、野球団の外国人選手家族のボランティア通訳としてメンバーが活躍。また、2009年4月に行われた「ピーウィー国際アイスホッケー八戸記念大会」では、多くのメンバーが通訳やスタッフを務めました。

福島では、「まなびピアふくしま 2008 (第20回全国生涯学習フェスティバル)」でのステージやブース出展などの活躍や貢献について文部科学省から感謝状をいただきました。他にも各地域で、日頃の活動や体験を活かして、小・中学校では外国籍の児童の学校生活をサポートするボランティア、スピーチコンテストの審査員、国際交流協会で理事や会長を務めるなど、地域と世界を結ぶ草の根の支援事業で活躍しています。



「まなびピアふくしま 2008」で感謝状をいただきました

大学、高校、他団体からの依頼による特別講義の実施

国立大学法人富山大学では、教養教育の特殊講義に、言語交流研究所スタッフが7年連続で講義を担当。愛知県立若倉総合高校では選択科目の韓国語の講師依頼を受け、9年にわたり授業を担当。また、大阪府立箕面高校では国際理解教養講座で講演しました。他にも、東京工業大学の留学生へのガイダンス、全国各地の小中学校や公民館などからの依頼を受け、講義や講演を実施しました。



富山大学の講義では、地域の小学生メンバーも多言語や体験談を披露しました

テレビやラジオに出演

仙台では、「スーパーJチャンネルみやぎ (東日本放送)」の中で、「聞いてまねるだけ、テキスト使わず多言語習得」というタイトルで、様々な年代のメンバーが、普段、多言語を口にして楽しんでいる様子などが紹介されました。

愛知県では、「RADIO SAN-Q FM84.5MHz (愛知県)」で海外からのゲストを迎え、ヒッポのホームステイ体験談や多言語ならではの楽しい話題を3年に渡り放送しました。また、FMラジオつくば「What's Tsukuba」(茨城県)では、受け入れホームステイの体験談が紹介されました。他にも、FM茶筌「気ままにティータイム」(埼玉県)や、FMさせぼ (はっぴい! FM)「気ままにティータイム」(長崎県)などの番組に、メンバーが多数ゲスト出演しました。

各地の国際交流イベントに参加

横浜では、「横浜国際フェスタ 2008」と、横浜開港150周年記念イベントとして認定された「横浜国際フェスタ 2009」にブース及びステージ参加をし、多言語が飛び交うヒッポの日常の活動や国際交流体験の紹介をしました。また、世界のお土産がもらえるスタンプラリーなどで来場者と交流しました。他にも、名古屋での「ワールド・コラボ・フェスタ 2008」、大阪での「ワン・ワールド・フェスティバル」、福岡での「アジアマンス」など、各地域の国際交流支援事業に多数参加。海外の方や来場された方々と交流を深めました。また東京・多摩市、千葉・木更津市、松戸市など多数、パネル展も開催しました。



横浜国際フェスタ 2009 では、ステージでパフォーマンスも

活動体験レポートや各国語スピーチコンテンツで受賞

茨城では中学生メンバーが、「行動〜地球と私のためにできること〜」をテーマにしたエッセイで、「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2008」に入選、筑波国際センター所長賞を受賞の他、「英語インタラクティブフォーラム (茨城県教育委員会等主催)」で茨城県議会会議長賞を受賞しました。また、岐阜・美濃加茂市では小学生メンバーが、韓国青少年交流の体験報告の作文で美濃加茂市の賞を受賞しました。



大阪「ワン・ワールド・フェスティバル」ではブース参加



各地域で「赤ちゃんことばの発達」の会を開催



愛知万博後の行事でロシアブースを開きました



MITの教授を迎えての東京の会で、量子力学の劇を披露



名古屋「ワールド・コラボ・フェスタ」では、留学生も活躍



千葉・松戸市では駅前ギャラリーで写真展を開催

国際交流活動

ヒッポの国際交流プログラムは「ことばと人間」に出会う冒険です。日常の活動の中で多言語に親しみ、たくさんの人たちとことばを交わしながら、皆で出発までの準備をしていきます。ことばの自然な習得体験を通して、互いの国に家族のような親しい友だちをつくることができます。

今年度は、アメリカ、カナダ、コスタリカ、メキシコ、タイ、韓国、中国、マレーシア、台湾、オーストラリア、イタリア、オーストリア、スペイン、ドイツ、フランス、ロシアの16の国や地域とのホームステイプログラムを実施。約1,100名が海を渡り、110の国や地域から約3,500名を日本のメンバー家庭に迎えました。

新しい交流先の開拓および交流プログラムの充実に向けて

家族交流 (コスタリカ、メキシコ、韓国、中国、マレーシア、台湾、イタリア、スペイン、フランス、ロシア)

家族（社会人、子ども連れ、シニア世代など）で参加できる「家族交流」では、10の国と地域に、メンバー約400名がホームステイしました。

25周年を迎えたフランス交流は、最初に交流が始まった南仏アヴィニョンで実施。当時交流に参加したメンバーも20年ぶりに参加し再会を喜びました。20年前、アヴィニョンの代表者は「日本人は別の惑星の人と思っていたけれど、同じ人間だった！」とヒッポのホームステイに感動し、その後「Antipodes（地球の反対側）」という団体を設立、現在まで相互交流が続いています。また、パリでは相互交流団体の一つの「Les amis du Japon（メッス）」の会長と合流、在パリ日本大使館文化広報室長を表敬訪問し、ヒッポの活動や交流を紹介しました。

スペイン・バルセロナ交流では、バルセロナ市の日本領事館に表敬訪問し、スペイン語や多言語を交えての活動紹介などをプレゼンテーションし歓迎を受けました。

秋の中国・上海交流には約25名が参加。北海道をはじめ全国からお父さんメンバーも多数参加し、帰国後も各地域の交流報告会に参加するなど、交流が続いています。

また、今年で2回目となるアジア青年多言語合宿交流（上海）は、前回に引き続き、在上海日本総領事館、(財)海外技術者研修協会(AOTS)からの後



自然がいっぱいのコスタリカ交流は2回目の実施



フランス家族交流では、現地の学校を訪問、子どもたちと交流



スペイン家族交流で、在バルセロナ日本領事館をメンバーと訪問

援をいただきました。今回は、約100名が参加。日本だけでなく韓国やアメリカのヒッポメンバーや、インドネシア、マレーシアからも参加者が集まりました。アメリカから参加したメンバーは、多言語活動をテーマにした歌をつくり、合宿中に英語から、日本語、韓国語、中国語などへ、参加者それぞれの国のことばにしてみんなで楽しむなど、多言語での交流の輪がアジアに大きく広がってきています。



上海の合宿で背丈より高いキャンプファイヤーを準備した大学生たち

青少年交流 (アメリカ、メキシコ、タイ、韓国、マレーシア、台湾、オーストラリア、イタリア、フランス、ロシア)

今年度は、小学5年生から大学生年代のメンバー約650名が、10の国や地域へホームステイ交流に出かけました。親元を離れ、一人で10日間～1ヵ月間を現地で過ごすホームステイプログラムでは、異文化を学びながら、家族の一員になる貴重な体験をします。

アメリカ青少年交流には、日本をはじめ、韓国やメキシコからもメンバーが参加しました。ウィスコンシン州にステイしたメキシコの青少年メンバーのホスト家族は、交流後、メキシコ国境まで出向き、メキシコの家族との対面が実現するなど、家族同士の交流も深まりました。

春のオーストラリア青少年交流では、現地の自治体に表敬訪問し、英語をはじめ多言語で活動紹介をしました。他にも、イタリア青少年交流では、新しくフィデンツァとも交流が始まっています。



アメリカのホスト家族とチェスで真剣勝負



オーストラリア青少年交流では、現地の自治体を表敬訪問



韓国のホスト家族と一緒に、キムチを作りました



マレーシアの大家族に囲まれて



ロシアでは、ロシア語で、毎日、本当の姉弟のように遊びました



メキシコでは、陽気なホスト家族が出迎えてくれました

ヒッポ イヤーロング [高等学校交換留学] プログラム

イヤーロングプログラムは、世界9カ国（アメリカ、カナダ、メキシコ、オーストラリア、イタリア、オーストリア、スペイン、ドイツ、フランス）に、全国から76名の高校生が参加しました。現地でホームステイをしながら学校生活を体験するプログラムは毎年好評で「たくさんの人との出会いの中で自分自身が成長できた」などの体験談が世界各国から届きました。また海外6カ国（メキシコ、ブラジル、ドイツ、オーストリア、ルーマニア、モンゴル）からは、交換留学生14名を約1年間、日本の家庭に迎えました。



アメリカの学校生活を体験

海外からの研修生、留学生などの国内ホームステイの充実

受け入れ交流プログラム

あらゆる国籍、年代の方々（企業や各国大使館・領事館等に研修で来日している方、留学生、相互交流をしている諸団体）との受け入れ交流プログラムを、年間を通して実施しています。

今年度は、1泊2日から1年間の長期ホームステイまで、約100団体からの依頼を受け、110の国と地域から約3,500名が日本のメンバー家庭でホームステイを体験しました。

今期は、アメリカの国際交流財団ピープル・トゥ・ピープルインターナショナル（PTP）が主催する、異文化交流と国際親善を目的としたプログラム「学生交流大使プログラム（Student Ambassador Programs）」でアメリカの中高生を、1グループ約40名、全国で約700名を各地域のメンバー家庭で受け入れました。神奈川県では、日本の中高生が交流会を主催しアメリカの中高生たちがヒッポの活動を楽しんだり、お茶や習字も満喫しました。受け入れした家族からは「初めは緊張したけど、すぐに打ち明けて、あっという間の4日間だった。今度は自分がアメリカの家にホームステイすることを約束しました」という感想が寄せられました。また、来日グループのリーダーから



PTPの受け入れで来たアメリカの子と習字をしました



とても陽気なチュニジアから来た男の子たち



JDS事業(人材育成支援無償事業)の受け入れでは、バングラデシュの人とすぐに仲良しに

は、「何度か来日しているが、これまでで一番素晴らしい交流だった」とのことばもいただいています。

イタリアからは、ゴールデンウィークの家族交流で訪れたパルマの団体が初来日し、ヒッポの受け入れホームステイとして相互交流が始まりました。来日中は、パルマでホームステイをしたメンバーとの再会を楽しみました。

フィンランドとチュニジアからのゲストが来日した際は、両国のゲストを合わせての交流会も実現。英語、フランス語、フィンランド語などが飛び交う楽しい場となりました。

またJICA東京（独）国際協力機構）から、長年の来日研修員の受け入れホームステイへの協力について、ヒッポファミリークラブに感謝状が授与されました。



JICAからの感謝状

アメリカ4-Hクラブとの相互交流

インターン生受け入れ



Jessica Robinson

アメリカ4-Hクラブ（アメリカ政府農務省が管轄下に置く青少年の教育団体）からインターン生を毎年受け入れしています。今年度は、メイン州よりJessica Robinsonさんが来日し、2008年9月より1年間ホームステイをしながら、ヒッポファミリークラブ本部（渋谷）で研修をしました。Jessicaさんはヒッポの日常活動に参加するほか、ホームステイや交換留学プログラムの準備、小中学校の国際理解授業、春のタイの青少年交流プログラムにも参加するなど、活躍してくれました。

【2009年度 国際交流参加実績】

国・地域	家族	青少年	YL	合計	国・地域	家族	青少年	YL	合計
アメリカ	—	161	34	195	台湾	22	82	—	104
カナダ	—	—	3	3	オーストラリア	—	19	2	21
コスタリカ	17	—	—	17	イタリア	13	20	2	35
メキシコ	74	10	3	87	オーストリア	—	—	1	1
タイ	—	15	—	15	スペイン	13	—	11	24
韓国	97	197	—	294	ドイツ	—	—	6	6
中国	72	—	—	72	フランス	20	9	14	43
マレーシア	23	24	—	47	ロシア	54	98	—	152
合計						405	635	76	1116

世界でヒポファミリークラブが紹介されました

ヒポの交流プログラムや活動が、世界各国の新聞で紹介されました。



●フランス

Cherbourg
「LA PRESSE DE LA MANCHE」
2009.4.8

春フランス青少年交流で、グリニャール高校との交流が3年目を迎えたことや、現地でフランス文化に触れたり、浴衣を着せるなど、相互に文化交流を楽しんだ様子が紹介されました。

●U.S.A.

Illinois
「THE FREEBURG TRIBUNE」①
2009.8.20

アメリカ青少年交流で、イリノイ州を訪れた参加メンバーが、ホストフレンドと共に地元の新聞で紹介されました。



②



Oregon
「The DAILY ASTORIAN」②
2009.8.14

アメリカ青少年交流で、オレゴン州を訪れた参加メンバーが、4-Hの地域役員を訪れた際の様子が紹介されました。

①



●ロシア

ハバロフスク
「ХАБАРОВСКИЕ ВЕСТИ」
2009.7.31

1991年来続いている、夏のロシア青少年交流のプログラムが紹介されました。



●マレーシア

Kuala Lumpur
「Sinar LANGKAWI」
2009.3.31

春マレーシア交流に参加した青少年メンバーたちが、ランカウイ島でマレーシア伝統のケーキ作りを体験した様子が紹介されました。



●韓国

釜山
「News Letter
Asien riend Vol.22」
2008.11

夏の韓国交流に参加した青少年メンバーたちの釜山での2週間のホームステイの様子が紹介されました。

海外のヒポファミリークラブ

LEX America / LEX Language Project / Language Research Foundation

ボストン近郊に4つの活動場所があり、現地メンバーが活動を楽しんでいます。

以前よりヒポに協力してくださっている、MITのスザンヌ・フリン教授を2009年3月に新たにLEX Americaの理事として迎え、5月には日本での講演会が実現しました。

また、幼稚園から小学生低学年向けに、多言語の活動を20人ほどのこども達と楽しむ「アフタースクールプログラム」を開始。

“Kumi Greissman 交流スカラシップ”の援助により、今年度はアメリカから、日本やアジア青年多言語合宿交流(上海)にメンバーが参加。多言語体験をメンバーが互いにシェアするなど、有意義な交流となりました。



ケンブリッジのファミリーのメンバーと

LEX Mexico / Club Familiar Hippo A.C.

メキシコシティ、クエルナバカ、チワワ、アカプルコに加え、新しくアグアスカリエンテスで活動が始まり、現在10カ所で約250名のメンバーが活動を楽しんでいます。

毎年恒例の合宿は、今期はチワワで実施。日本からの交流参加者のほか、メキシコ各地からのメンバーが集まり、チワワの市庁舎で開催された歓迎レセプションで交流を楽しみました。

また、『フーリエの冒険』のスペイン語版がメキシコ国立自治大学 (UNAM) から出版され、出版記念イベントが開催されました。



2009年春には、チワワからメンバーが大勢来日しました

Hippo Family Club 韓国

韓国はソウルを中心に、クァンジュ、チンジュ、テグ、チョナンの12カ所に活動場所があり、約400名のメンバーが活動を楽しんでいます。

今期は、「ソウル国際幼児教育展」に2008年秋と2009年春に出展。日本から応援メンバーも参加し、来場者に向けて多言語活動の紹介をしました。また、青少年交流は、日本、アメリカ、台湾へ韓国からも参加。初のロシアへの家族交流も実現しています。



「ソウル国際幼児教育展」のブースにはたくさんの方が訪れました

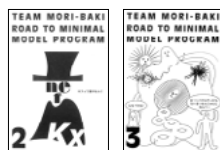
研究活動・広報・制作

「ことばと人間」をテーマにした研究部門 トランスナショナルカレッジオブレックス

「ことばと人間を自然科学する」をテーマに、大学生年代の学生が集まり、大学に通いながらも参加できるカレッジとして、研究活動に取り組んでいます。

今期は昨年度に引き続き、森重文氏の『極小モデル』（代数幾何）に取り組む、約10名ほどの大学生が互いに講義をしながら研究活動を進め、夏と春にはまとめとなる小冊子を発行しました。

また、春にはトラカレの研究発表会、またシニアフェロウ（研究協力者）による、小学5年生以上を参加対象にした連続講座「オープントラカレ講座」を実施。今年で4回目となる講座には、全国から親子で延べ1200名が参加し、好評を得ました。



「極小モデル」に取り組んだ成果を小冊子としてまとめました



オープントラカレ講座にはたくさんの方が集まりました

【2009年度 オープントラカレ講座 講師一覧】

(講師敬称略・開催順)

- 中村 桂子 (生命科学理学博士/JT生命誌研究館館長)
- 藤村 靖 (言語音声学/オハイオ州立大学名誉教授)
- 塚原 祐輔 ((株)理研ジェネシス代表取締役社長/凸版印刷株式会社ライフサイエンス事業推進部長)
- 南 繁行 (大阪市立大学大学院工学研究科教授)
- 丸山 瑛一 (独立行政法人理化学研究所 イノベーション推進センター特別顧問)
- 永井 清陽 (ジャーナリスト・元読売新聞ローマ・パリ・ロンドン支局長)
- 山崎 和夫 (京都大学名誉教授)
- 坂田 明 (ミュージシャン)
- 赤瀬川 原平 (作家・画家)

新しい文字システムの開発 ヒッポレターシステム

ヒッポレターシステムは、音文字としてのローマ字と意味文字としての漢字を合わせて用いるヒッポオリジナルの文字遊びです。

今年度は、地域でのワークショップや講演会、本部懇談会などで、ヒッポレターシステムのプレゼンテーションをしました。また、インターネット上でヒッポレターシステムを使ったやりとりができる「多言語チャット」を制作。高大生を中心に、海外メンバーともレターシステムを使ってのやりとりが楽しく始まっています。

出版/『フリーエの冒険 (スペイン語版)』の出版

『フリーエの冒険』がスペイン語に翻訳され、ラテンアメリカで最大規模のメキシコ国立自治大学 (UNAM) より『Aventuras con FOURIER』として、2008年11月、メキシコで出版されました。

UNAMのDr. Luis de la Pena氏とAna Maria Cetto氏の夫妻が、英語版を見て興味を持たれ、スペイン語版の翻訳が実現しました。翻訳はメキシコ市自治大学 (UACM) のM.C. Jose Luis Gutierrez S.氏。監修はDr. Luis de la Pena氏。

『フリーエの冒険』のスペイン語版は、日本語、英語、韓国語、中国語に続き、5カ国語目の発刊となります。



広報/ホームページ、機関紙による情報発信

発刊9年目を迎える機関紙「ひっぽしんぶん」では、年4回の季刊発行で、全国のメンバーの体験談や地域での最新情報に加え、研究活動を機軸にした情報を発信しています。メンバーの方や全国の講演会、体験会に参加された一般の方々に広く配布されています。

公式ホームページでは、日常活動やイベントの案内、ホームステイ交流の様子なども、さらに楽しく見ることができます。



制作/新しいマテリアルの完成

今年度は、新ストーリーCD「世界に広がる、多言語仲間！」のswヒリ語が完成し、20カ国語の活動になりました。swヒリ語の制作は、現地の録音事情などの理由で一時中断していましたが、LEX Americaの働きかけにより、アメリカでの録音が実現しました。



今後の取り組みについて

ワークショップなど、地域の会の充実

2009年度は、メンバーが地域を越えて交流するワークショップなどが各地で開催されました。内容は、ヒッポの研究協力者であり2008年にノーベル物理学賞を受賞された南部陽一郎氏の理論「対称性の自発的破れ」に迫るフィールドワークや、赤ちゃんとことばの発達についてのフィールドワーク、『記紀万葉』などを通して日本語の成立を探っていくフィールドワークなど、多岐にわたっており、今まで以上にメンバーの交流範囲も広がってきています。

今後も、メンバーの活動の楽しさが広がるワークショップや、研究や日常の多言語活動体験をシェアする地域の会を、フェロウやメンバーが中心となり、一緒に作っていきます。

MIT言語学スザンヌ・フリン教授を招いての会を実施

2008年、2009年に続いてマサチューセッツ工科大学（MIT）の言語学者スザンヌ・フリン教授が2010年5月に再来日し、東京、新潟で特別講演会を開催します。講演テーマは「人間はどのようにことばを獲得するのか?」。今回はスザンヌ・フリン教授に加え、言語脳科学者である東京大学の酒井邦嘉准教授の講演もあり、ヒッポの多言語実践活動で見つけてきたことと合わせて、多角的に「人間のことば」に迫ります。

また、前日本物理学会会長の坂東昌子氏、理化学研究所の丸山瑛一氏、米・レッドランド大学の元教授である大和田康之氏らとともに教育関係者向け講演会も別日程で開催し、これからの言語教育について広く考えていきたいと思えます。

アジア青年多言語合宿交流（上海）

2008年から始まった上海でのアジア青年多言語合宿&ホームステイ交流第3回目を2010年夏にも開催します。

毎回、日本、中国、韓国、マレーシア、インドネシアなどアジアを中心に合計で約100名が参加。2010年は、参加国、人数ともにこれまでの規模を上回る合宿の開催にむけて準備をすすめていきます。合宿地は、中国上海市郊外の太湖大学堂を予定。中国上海を舞台に、アジアの青年たちの国を越えた交流の場を今後も育てていきます。

マレーシアでの新しい青少年交流の実施

主に大学生年代を対象にした上海での青年多言語合宿&ホームステイ交流が大好評を博していることを受け、「多言語」で交流することの面白さをもっと若い年代の子どもたちにも広げていくために、2010年夏より「アジア青年多言語自然キャンプ&ホームステイ交流」を実施します。対象年代は12歳～高校生年代、5泊6日のキャンプ生活をアジアの青少年たちと一緒に体験し、その後、2泊3日のホームステイを楽しみます。マレーシアならではの自然体験、そして多言語体験を思い切り楽しむことができる新しいプログラムが、相互交流でお世話になっているマレーシア教育省の全面的なバックアップで実現します。

大学生活動の活発化

2008年度より始まった大学生活動を充実させていきます。

東京での月に一度の高大生ワークショップを始め、2009年夏からは名古屋でも高大生の会が始まっています。

この活動の中で育った大学生年代のメンバーだけでなく、新たにヒッポの活動を始める若者世代を含め、多言語を通してこれからの国際社会で活躍していく世代を育てていきます。

新しいマテリアルCDの制作

現在の20カ国語に加え、新たにベトナム語を加え、21カ国語の活動にしていきます。また2010年夏には、「世界に広がる、多言語仲間」シリーズにマレーシア語が加わる予定です。

中期的な計画としては、世界の歌を集めた「Sing Along! Dance Along!」シリーズの新作を準備しています。

「ことばを歌え！子どもたち」の英語訳版、韓国語訳版の制作

言語交流研究所の代表理事である榊原陽の著書『ことばを歌え！子どもたち』（筑摩書房刊）の英語訳版の制作も始まりました。翻訳は『フーリエの冒険』『DNAの冒険』の翻訳者でもあるAlan Gleason氏。2010年中には完成させ、今後の海外での活動の展開にも活用していきたいと思えます。

また、以前から進めていて一時休止していた韓国語訳版の制作も再開し、2010年中の完成を目指します。

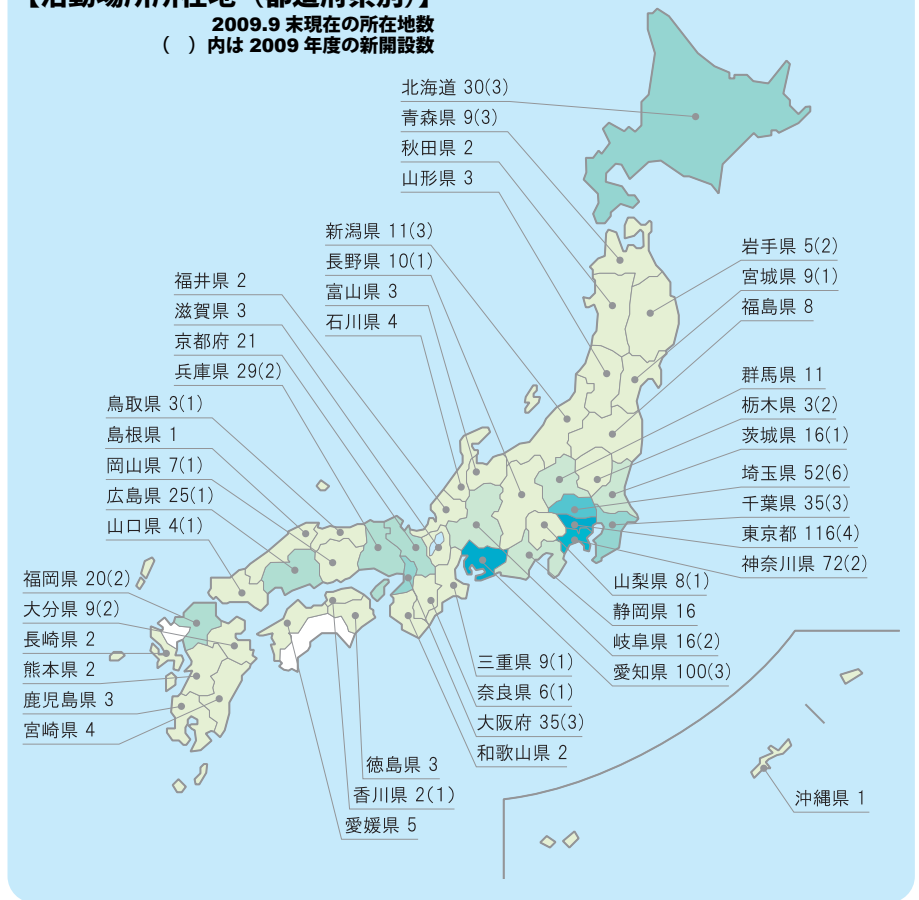
1981年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・言語交流研究所設立（東京都新宿区に本部事務所設置） ・ヒッポファミリークラブ（多言語自然習得の実践部門）発足 ・4カ国語（スペイン語・韓国語・英語・日本語）の活動を開始
1982年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、韓国交流始まる
1983年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ交流始まる
1984年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・トランスナショナル カレッジ オブ レックス（研究部門）開校
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒッポファミリークラブ家族会員（会費）制度の新設
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ（フランス、ルクセンブルク、スペイン）交流始まる
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語・中国語・フランス語を加え、7カ国語の活動になる
1985年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・代表理事 榊原 陽著『ことばを歌え！こどもたち』（筑摩書房）発刊
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・東京本部事務所とトランスナショナル カレッジ オブ レックスを東京都渋谷区に移転
1986年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ交流始まる
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・通商産業省主催「地域の国際セミナー草の根国際交流をいかに進めるか」基調講演（講師：代表理事 榊原 陽）
1988年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコ交流始まる
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・中国交流始まる
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・『フーリエの冒険』出版
1989年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・『人麻呂の暗号』（新潮社）発刊
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語・ロシア語を加え、9カ国語の活動になる
1990年 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・『額田王の暗号』（新潮社）発刊 ・ロシア交流始まる
1991年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾交流始まる
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ語・マレーシア語を加え、11カ国語の活動になる
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・『量子力学の冒険』出版 ・タイ、マレーシア交流始まる
1992年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・「多言語誕生 10 周年 記念フォーラム」開催（外務省、科学技術庁、国際交流基金、世田谷区教育委員会後援 / 東京・昭和女子大学 人見記念講堂）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア交流始まる
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア交流始まる ・『枕詞千年の謎』（新潮社）発刊
1993年 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・オランダ交流始まる
1994年 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロネシア交流始まる
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランド交流始まる
1995年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカにて『Who is Fourier?』（『フーリエ冒険』英語版）出版

1996年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・『国際協力・交流 NGO 団体年鑑』（外務省監修（社）日本外交協会発行）に登録・掲載
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカにて『What is Quantum Mechanics?』（『量子力学の冒険』英語版）出版
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際交流フェスティバル」開催（外務省、文部省、国際協力事業団(JICA)、(財)海外技術者研修協会後援 / 東京・東京ビックサイト）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス交流始まる
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「多言語誕生 15 周年 記念フォーラム」開催（外務省、文部省、科学技術庁、(財)海外技術者研修協会、国際協力事業団(JICA)後援 / 東京・日比谷公会堂）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル語を加え、12カ国語の活動になる ・オーストラリア交流始まる
1997年 8月	<ul style="list-style-type: none"> ・「イヤーロングプログラム（高等学校交換留学制度）」による留学生派遣始まる ・「HIPPO FAMILY CLUB Transnational Youth Camp」開催（外務省後援）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・『古事記の暗号』（新潮社）発刊 ・LEX America / Hippo Family Club スタート
1998年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・LEX Mexico / Club Familiar Hippo A.C. スタート
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・『DNA の冒険』出版
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール交流始まる
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・「青少年フォーラム」開催（外務省、文部省後援 / 東京・日本青年館大ホール）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア語・広東語を加え、14カ国語の活動になる
1999年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・チュニジア交流始まる
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・アラビア語を加え、15カ国語の活動になる
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会人フォーラム」開催（外務省、文部省、通商産業省、国際交流基金、国際協力事業団(JICA)後援 / 東京・東京国際フォーラム他、名古屋、大阪、広島にて開催）
2000年 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・インド交流始まる
2001年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒンディー語を加え、16カ国語の活動になる
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国にて『양자역학의 모험』（『量子力学の冒険』韓国語版）発刊
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・Hippo Family Club 韓国スタート
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒッポファミリークラブ20周年記念フォーラム」開催（東京・東京国際フォーラム）
2002年 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾語を加え、17カ国語の活動になる
2003年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・Sing Along! Dance Along! ⑥⑦、Extra 発刊 ・アメリカにて『What is DNA?』（『DNA の冒険』英語版）出版
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・トルコ語を加え、18カ国語の活動になる ・韓国にて『과동 의 모험』（『フーリエの冒険』韓国語版）発刊
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・『枕詞の暗号』（新潮社）発刊（『枕詞千年の謎』改題 / 文庫版） ・LEX America と Hippo Family Club が統合し、LEX America / Hippo Family Club / Language Research Foundation(公益法人組織)として設立 ・Hippo Family Club 韓国が非営利法人として登録
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「多言語活動誕生 25 周年記念フォーラム」開催（外務省、(独)国際協力機構(JICA)、朝日新聞社後援、(株)日立総合経営研修所協賛 / 東京・日比谷公会堂）

2004年	3月	・ハワイ・ホノルル交流、カナダ・オーロラ観測交流始まる	
	5月	・Hippo Family Club 台湾スタート	
	10月	・スウェーデン語を加え 19 カ国語の活動になる ・アジアンクルーズ交流始まる	
	11月	・『冒険 CD ブック 1 フーリエの冒険～第 5 章～微分<英語版>』出版	
2005年	1月	・「国際理解フォーラム」開催（文部科学省後援 / 東京・日比谷公会堂他、名古屋、大阪にて開催）	
	5月	・トルコ交流始まる	
	12月	・スウェーデン、フィンランド、ブラジル交流始まる	
2006年	3月	・春の青少年交流始まる ・『ヒッポレターシステム インターネット時代の文字表記法』出版	
	4月	・「ヒッポファミリークラブ 25 周年記念フォーラム」開催（外務省、文部科学省、(独)国際交流基金、(独)国際協力機構(JICA)、(財)海外技術者研修協会(AOTS)、朝日新聞社後援、(株)日立総合経営研修所、(株)JTB 協賛 / 東京・東京国際フォーラム他、名古屋、大阪にて開催）	
	8月	・オーストリア、ブルネイ交流始まる	
	9月	・『冒険 CD ブック 2 量子力学の冒険～第 5 話～ E. シュレディンガー 『さちば、マトリックス』<英語版>』出版 ・新マテリアル「世界に広がる、多言語仲間！」発刊	
	2月	・南アフリカ交流始まる	
	3月	・LEX America が、LEX America / LEX Language Project / Language Research Foundation と名称を変更	
2007年	8月	・「ヒッポ イヤーロングプログラム 10 周年記念 高校留学多言語フォーラム」開催（外務省、文部科学省後援 / 東京・国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催）	
	12月	・コスタリカ交流始まる ・台湾にて『数学唵聲班（基礎班・進階班）』（「フーリエの冒険」中国語版(繁体字版)）発刊	
	2008年	4月	・オランダ交流始まる
		8月	・第 1 回アジア青年多言語合宿交流(上海) の開催 ・マテリアル「カバジン」シリーズの 7 カ国語単言語版発刊
2009年	11月	・メキシコにて『Aventuras con FOURIER』（『フーリエ冒険』スペイン語版）出版	
	5月	・特別講演「多言語について」開催（講師：Dr. Suzanne Flynn MIT 言語学教授 / 文部科学省後援 / 東京・学習院創立百周年記念会館 正堂にて開催）	
	8月	・スワヒリ語を加え、20 カ国語の活動になる	

【活動場所所在地（都道府県別）】

2009.9 未現在の所在地数
() 内は 2009 年度の新開設数



アメリカ	メキシコ	韓国	
ボストン周辺 4(1)	メキシコシティ 3(1)	ソウル周辺 8	天安(チョナン) 1
	チワワ 4(1)		光州(クァンジュ) 1
	クエルナバカ 1		大邱(テグ) 1
	アカプルコ 1	アグアスカリエンテス 1	晋州(チンジュ) 1

【トランスナショナルホームステイ 実施国・地域及び交流参加者数】
(2008.10 - 2009.9)

欧州 (NIS諸国を含む)					
アイスランド	-	1	キルギス	-	17
アゼルバイジャン	-	2	クロアチア	-	1
アルバニア	-	3	スウェーデン	-	5
アルメニア	-	1	スペイン	24	9
イタリヤ	35	18	セルビア	-	2
ウクライナ	-	2	タジキスタン	-	4
ウズベキスタン	-	24	デンマーク	-	1
英国	-	11	ドイツ	6	35
オーストリア	1	2	ルルウェー	-	15
オランダ	-	3	ハンガリー	-	1
カザフスタン	-	5	フィンランド	-	7
			ロシア	152	129

北米	
米国	195 713
カナダ	3 7

中東		
アフガニスタン	-	13
イラク	-	1
イラン	-	4
シリア	-	4
トルコ	-	5
パレスチナ	-	1

アジア					
インド	-	91	フィリピン	-	97
インドネシア	-	178	ブルネイ	-	5
カンボジア	-	15	ベトナム	-	118
シンガポール	-	48	マレーシア	47	152
スリランカ	-	11	ミャンマー	-	32
タイ	15	109	モルディブ	-	13
韓国	294	697	モンゴル	-	29
中国	72	344	ラオス	-	19
ネパール	-	10	台湾	104	33
パキスタン	-	12	香港	-	36
バングラデシュ	-	30	マカオ	-	3
ブータン	-	12			

アフリカ					
ウガンダ	-	2	シエラレオネ	-	1
エジプト	-	4	ジンバブエ	-	3
エチオピア	-	2	スーダン	-	1
ガーナ	-	6	セネガル	-	2
ケニア	-	12	タンザニア	-	6
コンゴ共和国	-	1	チュニジア	-	16
コンゴ民主共和国	-	3	ナイジェリア	-	5
ザンビア	-	5	ニジェール	-	1

大洋州		
オーストラリア	21 23	
サモア	-	2
ソロモン諸島	-	1
トンガ	-	1
ニュージーランド	-	12
バプアニューギニア	-	3
フィジー	-	7

中南米		
アルゼンチン	-	4
アンティグア・バーブーダ	-	1
エクアドル	-	1
エルサルバドル	-	4
グアテマラ	-	3
コスタリカ	17	3
コロンビア	-	3
ジャマイカ	-	2
チリ	-	3
ドミニカ共和国	-	7
ニカラグア	-	4
パナマ	-	1
パラグアイ	-	5
ブラジル	-	5
ベネズエラ	-	6
ペルー	-	4
ボリビア	-	2
ホンジュラス	-	1
メキシコ	87	20

訪問数 相互交流国または地域 来日数 受入交流国または地域
※表中の数字は、それぞれの参加人数

【海外ホームステイ交流団体・ホームステイ来日団体グループ】

アメリカ：LEX America、アメリカ 4-H クラブ、FACE、Premium International Exchange、Global Education and Culture Exchange、Nacel Open Door、PTP、バージニア工科大学、Semester at Sea、米国北東部日本語教師会ほか
カナダ：アルバータ 4-H クラブ、Nacel Canada Inc.、STS ほか
コスタリカ：サンホセ・アムタレナス・モンテベルデ有志グループ
メキシコ：LEX Mexico (メキシコシティ、クエルナバカ、チワワ、アカプルコ) ほか
ブラジル：Connection Line、Nacel International ほか
インド：AOTS インド同窓会(ブネ支部・バンガロール支部・デリー支部・チェンナイ支部・ムンバイ支部・コーチン支部・ハイダラバード支部)、ブネ池坊いけばな会、ウイリントン・ビジネス大学院
インドネシア：AOTS インドネシア同窓会ほか
シンガポール：Hippo Exchange Club ほか
タイ：AOTS タイ同窓会、カセー日本語学校ほか
韓国：ヒッポファミリークラブ韓国、全羅北道庁、釜山・韓日文化交流協会、

機会の学塾、全南科学大学、南部大学、東南保健大学、日韓文化交流センター (TOTORO HOUSE)、ソウル市中区青少年修練館、ソウル市西大門区青少年修練館、ソウル市麻浦区青少年修練館、仁川市東北區 Vision21、A・N・A・G・I、韓国現代、淑明女子高校、HOLT、Unilink Korea、春川・蔚山・仁川・大田・金海・晋州有志グループほか
中国：淑徳日本語学校香港サマースクール、AOTS 上海同窓会、上海市经济管理幹部学校、上海外国語大学、上海市曹楊新村、杭州烏龍大清村ほか
ブルネイ：SSEAYP (東南アジア青年の船) 同窓会
マレーシア：AOTS マレーシア同窓会、マレーシア教育省、ヒロシマ国際クラブほか
モンゴル：Mongolian National Youth Exchange Agency
台湾：ヒッポファミリークラブ台湾、台北市各区国民小学校、台中縣豊原父母成長会、台南・桜橋外語学院、台南市各国民小学校、台南有志グループほか
オーストラリア：南オーストラリア州政府教育省、FACE Oceania
ニュージーランド：ニュージーランド大使館紹介協力校
ミクロネシア：ミクロネシア 4-H クラブ

イタリア：ローマ・ミラノ・トリノ・フィナレリグレ・バルマ・フィデシツァほか各都市有志グループ、WEP
イギリス：Nacel International
オーストラリアウィーン有志メンバー、STS
オランダ：ロッテルダムほか有志グループ
スウェーデン：STS、ストックホルム有志グループほか
スペイン：バルセロナ有志グループ、Nacel Espana S.L.
ドイツ：Open Door International e.V.、Euro Vacances、DFSR GmbH、KulturLife、Travel Works、フェヒタ有志グループ、ミュンヘン市民大学ほか
フィンランド：フィンランド 4-H クラブ、ロバニエミ有志グループ
フランス：Nacel France、STS、アピニョン Antipodes、アンジェ Kampai Anjou!、メッス Les amis du Japon、リヨン・リール・アルザス・シェルブールほか各都市有志グループ
ルーマニア：International Education Center Romania
ルルクセンブルク：ルルクセンブルク有志グループ、Nacel International
ロシア：ウラジオストク・ナホトカ・イルクーツク青年会議所、ウラジオストク 第 51 学校、ハバロフスク Generation2000、ハバロフスク "STUPENI" Lyceum、ウズリースク有志グループほか各都市有志グループ

トルコ：日土婦人友好協会、チャナッカレ オンセキズ・マルト大学、イスタンブール有志グループ
チュニジア：チュニジア日本友好協会
南アフリカ：ヴェンタ有志グループ

【主なホームステイ受け入れ依頼団体】

- 外務省
 - 内閣府
 - 独立行政法人国際協力機構 (JICA)
 - (財) 海外技術者研修協会 (AOTS)
 - (財) 日本国際協力センター (JICE)
 - (財) フォーリン・プレスセンター
 - (財) 青少年国際交流推進センター
- ほか、各都道府県・市町村の行政府、教育委員会、国際交流協会、諸団体、大学、学校、専門学校からのホームステイ依頼を全国各地域で受けています。

言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-2-10 青山H&Aビル TEL.03-5467-7041(代)
中部・関西・西日本・九州・アメリカ・メキシコ・韓国・台湾にも支部があります。

フリーダイヤル：0120-557-761

ホームページ：http://www.lexhippo.gr.jp/